

浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成12年8月

第8号

読者の広場

東本願寺派婦人会信条

「お念仏と共に心豊かな家庭生活をいたしましょう。」
「寛容（柔和忍辱）と感謝（和顔愛語）の心で和やかな社会を築きましょう。」
「未来を担う子供達に仏さまと生きる喜びを伝えましょう。」

本弘寺婦人会発足20周年記念式典終わる

本弘寺婦人会発足してここにめでたく20周年を迎えることができ、去る6月20日に記念式典を執り行うことができました。

ご来賓の本弘寺住職様、責任役員の吉田様よりご挨拶をいただき、その後、東京本願寺御裏方様よりいただきました、5年・10年・20年の永年表彰と記念品を、坊守様より一人一人に手渡され、ありがたい盛大なる式典でありました。

また、記念誌も発行され、立派な本弘寺婦人会と、嬉しく思います。

役員一同

私たちのみ教え（浄土真宗）

仏様は、いついかなる時代にあっても変わる事のない、普遍性をもつ真実のみ教えです。お釈迦様は八十年のご生涯において、私たちに真実のみ教えをお説き下さいました。そのみ教えを、日々の生活の中で悩み苦しむ私たちに、もっともわかりやすいかたちでお説き下さったのが、浄土真宗をお開きになられた親鸞様です。親鸞様が私たちにお教え下さった浄土真宗のみ教えは、「阿弥陀仏の本願を信じ、念仏申せば仏となる」というお念仏のみ教えです。そのお念仏のみ教えは、私たち一人一人のかけがえのない人生を活かし生きる大道です。

現代社会に生きる私たちは、忙しい毎日に追われ、目先のことに執られて、人生において大事なことを見失っています。蓮如様が、そしてご先祖の方々が受け伝えられてこられた浄土真宗のみ教えは、何ものにも妨げられる事のない力強い生き方、明るく確かな真に安心して歩んでいける道へと導いて下さる教えなのです。

～蓮如上人五百回御遠忌記念「お念仏の道」より抜粋～

「私にとっての日曜礼拝とは」

主人を亡くして一人になった私を案じて、息子夫婦と同居することになり、最初は主人を亡くしてこれからどのように供養をしたら良いものか分からず迷い、息子と孫が私に付き合ってくれ、一年間日曜礼拝に通いました。

だんだんと心の整理もつき、そのうち家族に対しての心構えのようなもの変わっていききました。私の心の中には、善もあれば悪もあり、一応、悪の心は心の奥底に沈めておりますが、いつ飛び出すかも分かりません。日曜礼拝のお陰で、前向きな考えができるように気付かせていただいております。

日曜礼拝とは、自分自身を気付かせてくれる所です。もし良かったら、私といっしょに日曜礼拝にいらっしやいませんか？きっとすばらしい自分自身に気付かせていただけますよ。

M・K

※毎週日曜日朝8時より、約30分の正信偈のお参りと、住職の法話がございます。皆様どうぞお気軽においで下さいませ。

「お盆さまがまいります」

お盆さまがまいります

父さま母さまのおもかげが

お浄土の花ぞのに

にっこり笑っておいでます

とおいふるさと幼なごころ

おてんとさまに似た愛を

もらったご恩をひたすらに

南無阿弥陀仏をとらうるの

合掌

K・T



編集後記

広報の仕事をお受けしたもののまだまだ未熟者で、何をどのように皆様の元にお届けしたらよいのか良い案も浮かばぬままに、第8号の発刊となってしまいました。第9号からは読者の皆様からの投稿を是非お願いいたします。どのようなことでも結構でございますので、下記宛にどうぞよろしくお願いたします。

高島美智枝 電話 042-752-3870